

令和4年度 特色ある教育・経営の取組みを行う私立学校の事例集

## 多職種連携教育の実践とポストコロナへの展望 ICTを活用した教育研究研修活動の活性化

学校法人藤田学園  
藤田医科大学

### 藤田医科大学

愛知県豊明市、最寄り駅の名鉄名古屋本線前後駅からバスで15分にある藤田医科大学の広大なキャンパスには、日本一の病床数を誇る大学病院が存在感を示しています。



藤田医科大学のキャンパス

創設者である藤田啓介氏が掲げた建学の精神「独創一理」の下、「良き医療人の育成」に向けて、教育研究・医療活動をを行っています。創設以来、多職種連携教育に力を入れ、学部・学部の垣根を越えた特色ある教育を実施しています。国内最大規模の大病院の最先端設備を活かし、保健・医療・福祉における多職種連携を可能とする人材の育成に取組み、現在では3学部5学科、大学院は2

研究科をもつ医療系総合大学となっています。

### ○建学の精神に基づくアセンブリ教育

#### 【アセンブリ教育とは】

開学当初、チーム医療という概念がまだ一般的でなかった時代から、「教員と学生が学部学科の垣根を越えて、共に学び良い医療人を育成する」という創設者の理念の下に始まったのが、アセンブリ教育です。

現在、すべての学生が「コミュニケーション」、「チームワーク」、「患者中心の考え方」、「職種の理解」といった能力を身につけ、「保健・医療・福祉における多職種連携の目的や意義を理解した上で、現場において多職種連携（協働）を実践することができる医療人」となることを目指し、アセンブリI～IVという授業科目を段階的に実施しています。

#### ◆アセンブリI

へ全1年生を対象とした「コミュニケーション」を身につけるプログラム  
グループでの活動を中心に、自分と他者との違い、他者の話を聴く、自分の意見を伝えるというコミュニケーションの基本を学びます。

#### ◆アセンブリII

へ全2年生を対象とした「チームワーク

を身につけるプログラム」

一対一の世界から、同じ目的に向かって取り組むチームへと関係性を広げアセンブリIで身につけたコミュニケーションを土台としてチームワークを学びます。同大学が大切にしている「災害時における社会貢献」として「避難所における貢献」をテーマとしたチーム活動を行っています。

#### ◆アセンブリIII

へ全3年生を対象とした「患者中心の考え方」を身につけるプログラム  
患者という存在はアセンブリIIIで初めて登場します。アセンブリIとIIで身につけたコミュニケーションとチームワークを大切にしながら、チームとして患者の抱える困難解決へ取り組むべく、患者のためにという「患者中心の考え方」を学びます。なお、医療のみならず、福祉の視点も取り入れています。

同大学の他、日本福祉大学、名城大学、愛知学院大学の学生と教員も参加します。約千人の学生が参加する「チーム基盤型学習」は、世界でも類を見ない大規模な小グループ学習です。

#### ◆アセンブリIV

へ4年生（医学部は6年生）の一部を対象とした多職種連携を実践するプログラム  
アセンブリI～IIIで身につけた「コミュニケーション」、「チームワーク」、「患者中心の考え方」、「職種の理解」を活かし、実際の保健・医療・福祉の現場における実践を通して、学生が主体的に課題をみつけて、解決に向けて取組

みます。

このように、現場では欠かすことのできないチーム医療の基礎作りを在学中に行います。同大学HPの「受験生サイト」や各学部の大学案内の卒業生へのインタビューには、「アセンブリ教育」を通じた学びがチーム医療の実践において非常に役立っているという声が多くあります。そのため本教育手法は、受験生からの期待も高く、推薦入試の面接では、ほとんどの学生がアセンブリ教育を行う同大学で学びたいと、熱意を伝えています。

### 【アセンブリ教育センター設立の経緯】

現在アセンブリ教育を担うアセンブリ教育センターは、2017年4月に設立されました。以前は各学部で組織した委員会が連携し教育活動を行っていましたが、全学的な統率力や委員の交代に伴う継続性、教員の業務負担に課題がありました。そこで、学長直下に学部・学科を跨いだセンターを作り、専属の事務職員を配置し、教員も組織化することで、前年度の課題を引継ぎながらステップアップする組織が実現しました。また、センターの大きな特徴の一つに学生代表の存在があります。これは「授業作りに学生の声を取り入れないと、教員の自己満足に終わってしまう」というセンター長の意志によりです。

### 【Team's Moodie's活用】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が国内でも顕著となった2020年初頭、新学期が目前に迫る中、アセンブリ

リ教育Ⅰ～Ⅳもそれぞれ早急にオンライン対応を行いました。アセンブリⅢは他大学の学生も参加しますが、従来の対面授業においては教室確保が難しく、すべての希望者を受け入れることができませんでした。そこで、コロナ禍を機にTeams（チャット主体の会議ツール）を活用したところ、約千人の学生と教員を受け入れることができました。いかに質を落とすことなく実施できるか、特に千人を6人ずつのチームに分けて行うため、どのように教員を確保して指導するかが課題でしたが、多くの教員の協力を仰ぎ、Teamsの利便性を活かし教員1人が3グループを担当することで、従来の対面形式よりも各グループの学習状況を同時に細かく確認し、手厚く指導することが可能になりました。

また、課題の提出は Moodle（学修管理システム）を活用しました。学生は事前課題や授業中の確認テスト、事後課題の提出にあたり本システムを通して行っています。

## 〇画期的な研修システム「ふじた学びば」

### 【ふじた学びば】導入の経緯

大学設置基準の改正により、2008年度からはFDの、2017年度からはSDの実施が義務付けられています。同学園は、法人・大学・病院の3部門から構成され、従来から各拠点で研修を実施していましたが、JCI認証（国際基準の質を担保し、安全な医療

を提供している医療機関に与えられる認定）の受審を機に、企業と合同でFD・SDに関する教育コンテンツをオンラインで視聴で学習するシステム、

「ふじた学びば」を開発・導入しました。JCI認証を受けるためには教職員が教育研究や通常業務の合間に数多くの研修を受講する必要があります。

本システムを利用し多忙な医師や看護師がいつでもどこでも簡単に学習可能になったことで、教育研究活動の活性化に繋がり、また、FD・SDの受講状況の一括管理が可能となりました。加えて、大学認証評価受審では「集合研修の未受講者が後日受講できること」、

「100%の受講率が達成できていること」が評価されています。同大学では教職員を対象に400種類の研修を実施しており、従来は各教育病院で受講を管理していましたが、本システムを導入し人事部で一括管理した結果、大幅な業務効率化が得られました。

### 【実施体制と運用】

「ふじた学びば」の運営は、各学部のFD委員長のリーダーシップの下、人事部を中心に、教職員協働で行っています。同組織では、学園全体の「ふじた学びば」の運用管理を担当し、受講者にとってわかりやすい研修体制を作るため、運用ガイドラインの策定やシステム上の操作フローなど、受講しやすい環境づくりを推進しています。また、特徴的なのは受講率100%を達成する仕組みです。受講管理もシステムで一元管理することで、未受講者

の把握を瞬時に行うことができます。これにより最後の一人まで未受講者を受講へと促している点で、研修のマネジメント力が優れています。教授会レベルで受講チェックをしていることも

視聴の意識づけに繋がっています。その一方、オンラインによる研修は、対面の研修と比べ効果が落ちる懸念もありましたが、受講後の確認テスト機能付加やテスト問題の難易度を調整して研修効果を着実に向上させています。「ふじた学びば」を活用した研修の法人

全体の実施件数は、2020年度138件、2021年度190件と伸びています。JCI認証受審の関係で病院の研修が多くの割合を占めています。コロナ禍において本システムの有効性が学園内に普及したことにより、大学の研修数も増加しています。中でも、病院部門の「看護部による看護手技関連の研修」や大学部門の「コロナ禍における心肺蘇生法」に関する動画は高評価を得ています。一方、視聴率が低い研修

動画については、繁忙な現場スタッフに配慮し、視聴時間が短時間のコンテンツを作成する等改善をしています。また、FD委員会と連携し、研修後にアンケートを実施しています。アンケートから見えたニーズに基づく新規プログラムの立案や、コロナ禍におけるベストティーチャー賞を受賞した授業動画を学内共有するなど、新しい目玉コンテンツを次々と生み出しています。今後も継続的に意見集約を行い、プロ

グラムに反映することで研修プログラムの改善を行います。

## 〇災害時の社会貢献

藤田医科大学病院は愛知県基幹災害拠点病院に指定されており、「災害時に地域に貢献できる人材」を育成するため、2023年度の入学生からアセンブリ防災（災害時の社会貢献）のプログラムを開始します。具体的には、全学生に対して防災士の養成講座の受講を義務化し、避難所における仮設トイレと段ボールベッドの設置、食料支援についての経験を積んだ上で、被災住民中心の考え方を学ぶプログラムを導入する準備を始めています。今後、アセンブリ防災と多職種連携教育の両者をバランスよく取り入れた新しいアセンブリ教育を構築します。

### 【取材を終えて】

藤田医科大学のアセンブリ教育は、1対1のコミュニケーション、チームでの活動、現場での経験とステップアップをしながら多職種連携の理解を深める「連続的・段階的」な特色ある教育を行っています。対面とオンラインそれぞれのメリットを生かし、教育環境は更に向上することでしょう。

同大学の研修の受講率の高さは、受講が義務化されているもののマネジメント力だけでなく、参加者の声を直ちに反映する仕組みや次々と生み出される新規コンテンツの企画力の高さが、受講者の心を掴んだ結果であると感じました。（取材）私学経営情報センター